

平成30年度 寄附講座にかかる評価報告

寄附講座は本学が自主性、主体性を持ちながら、研究・診療・教育の活動を行っている一方で、学外の第三者からの寄附金を財源としていることから、講座運営の透明性や研究活動の実績、成果を求められております。

このことから、活動報告書や成果報告会において報告を受け、寄附者や外部有識者で構成する寄附講座アドバイザーなどにより、毎年各講座の活動に対して評価を行い、適切な講座運営が図れるよう取組みを進めております。

1 評価の概要

寄附講座にかかる評価は、各講座から提出された研究活動報告書・診療実績報告書・教育活動報告書をもとに、寄附者や外部有識者で構成される寄附講座アドバイザーなどの評価を踏まえ、まとめたものです。

(1) 評価者

①寄附者（15団体 ※辞退者を除く）

②寄附講座アドバイザー（6名）

公立大学法人会津大学 理事 岩瀬次郎 氏

公益財団法人福島県産業振興センター 理事長 鈴木清昭 氏

福島県住宅生活協同組合 理事長 和合アヤ子 氏

福島県中小企業団体中央会 副会長兼専務理事 熊本俊博 氏

公益社団法人福島県看護協会 会長 今野静 氏

一般財団法人大原記念財団大原総合病院 副理事長兼統括院長 佐藤 勝彦 氏

③学内評価者（3名）

医療研究推進戦略本部長、副本部長、医療研究推進センター医療産業連携部門長

(2) 評価の区分

講座の活動における計画に対する達成度合いに応じて以下の区分により行っております。

S：優れている・・・（計画の100%超）

A：評価できる、適切である（計画の80～100%程度）

B：やや改善を要する（計画の60～80%程度）

C：改善を要する（計画の60%未満）

2 評価結果

評価の結果、大半の講座の研究活動、診療実績、教育活動については、評価できる、適切であるとの評価をいただきました。特に論文数の少ない講座においては積極的に論文化に取り組むこと、また、各寄附者への報告を適切に行うこと等の助言がありました。

講座名	評価区分	評価	主な意見
肺高血圧先進医療学講座	研究	A	<ul style="list-style-type: none"> ・寄附目的に沿った計画であり、前年度までの結果をふまえて年度計画に沿って発展した研究を進めている。 ・研究結果をAHAにて3件の発表を実施している。 ・バイオマーカーに関する研究の着実な進行(論文5、学会発表11回)、今まで気付いていない観点まで視野を広げている点は評価できる。 ・基礎研究は予想通りの結果を残している。 ・論文、国際学会等での報告が7件と多く成果が出されているが、減少傾向にあるのは気になるところ。 ・中間に弊社からの要望に応じて適切に進捗状況の報告を行っていただけた。 ・高脂質食飼育マウスによる研究で脂質異常に伴うPHの病態等の研究の進展を期待します。 ・昨年までの研究計画にあった患者データベース化はどうなったのでしょうか。
	診療	A	<ul style="list-style-type: none"> ・寄附目的に沿った適切な診療活動が展開され、地域医療に貢献している。 ・県内各地区での研究会を計画しており更なる貢献が期待できる。 ・会津地区で新たに肺高血圧症専門外来を開始し、計画的に診療機関を増やす取り組みを行っている。 ・新たな確定診断患者も前年度を上回っている。 ・ネットワーク形成など、拡がりのある視野が欲しい。 ・一般開業医院の患者様の病院への紹介システムを確立し、未診断の患者様への適切な医療を期待します。 ・中間に弊社からの要望に応じて適切に進捗状況の報告を行っていただけた。
生活習慣病・慢性腎臓病(CKD)病態治療学講座	研究	S	<ul style="list-style-type: none"> ・寄附目的に沿った研究となっており、計画に沿った研究活動が展開されている。期待以上の研究成果を上げている。論文、学会発表等の実績は高い水準を維持している。 ・国レベルの指針、ガイドライン作成への参画など成果の展開も着実である。 ・国、県内各機関との連携体制が年々拡充され、地域向けCKD予防のための連携、市民向けの啓発活動も積極的である。 ・フィールドをしっかりと持ち実践している。 ・より一層の研究成果を期待しております。
医療エレクトロニクス研究講座	研究	S	<ul style="list-style-type: none"> ・寄附目的に沿った研究活動が展開されている。これまでの研究活動の進捗を踏まえた今後の計画が設定されている。期待以上の成果があがっている。 ・脳のホルモン分泌機序研究は着実に進行している。 ・優れた解析技術を用いてエビデンスを引き出している。 ・論文数は前年度を上回っている。発表の場の拡充に努められたい。 ・本講座のタイトルにある医療機器開発に関して、H30実績に「脈波測定センサーを開発」とあるがその記述が報告書に無い。適切な実績記述と医療機器開発に繋がる道筋を示すべき。

心臓病先進治療学講座	研究	A	<ul style="list-style-type: none"> ・寄附目的に沿った研究活動が、計画に沿って実施されている。 ・前年度と比較して、研究成果が計画に沿って着実に出ており、成果発表も積極的に進められている。報告会において適切に報告されている。 ・心臓病患者に対する併存疾患のスクリーニングは重要であり、今後の研究計画は適切である。 ・論文(35)、学会(74)など、活動が十分に実施されている。 ・学術活動として海外にも多く発信し、多くの成果が publication(公表)されている。 ・研究と診療が一体化している。 ・心疾患病領域における SAS 診療の普及ならびに、包括的な生活習慣病管理、多面的な心不全診療に関する研究を通じて、医療と社会に貢献いただくことを期待します。
	診療	A	<ul style="list-style-type: none"> ・寄附目的に沿った地域との結びつきは特筆したい。診療活動が、非常に良く実施されている。 ・活動内容が具体的に記載されており、内容として適切であると判断できる。 ・病診連携水準まで高めている。 ・診療のみならず市民への啓蒙も行われている。 ・両検査とも前年度並みの実績数にとどまっている。 ・一般市民啓発のための講演活動は拡充していただきたい。
先端癌免疫治療学講座	研究	A	<ul style="list-style-type: none"> ・当初の研究計画に沿って研究活動が展開されており、期待以上の研究成果を上げ、成果発表も積極的に進められている。 ・研究活動は長期にわたるものであるが、ある一定の期間において進捗管理を行っており、更に効果的な研究活動につながるものと期待される。次年度計画も詳細で明確。 ・定期的に意見交換を行っており、現状の診療活動を踏まえた適切かつ具体的な今後の計画が設定されており、妥当なものであると認められる。適切な連携が出来ていると考える。 ・論文(32)、学会発表(17)と着実な進捗がみられる。 ・臨床試験の開始、企業コンソーシアムの4月立ち上げなど、計画に沿った実績も評価できる。更なる連携による具体的な成果を期待したい。 ・医師、患者向けの広報がなされている。
プログレッシブ DoHaD 研究講座	研究	A	<ul style="list-style-type: none"> ・寄附目的に沿った研究活動が展開されている。 ・間葉系細胞にまで研究を進めている。進捗が遅れていると思われる。 ・論文(6)と発表(36)は着実な進捗である。但し、発表論文と DOHaD と直接関連したものか評価者には見えにくい。 ・DoHaD とエピゲノム研究の要ともいえるパイロットスタディの完遂に期待するところ。データプラットフォームを構築しつつある。 ・パイロットスタディを開始したことは評価できるものの研究自体の成果は、まだこれから。意欲は窺えるが、それを担保する具体的なものが見えづらいです。 ・パイロット臨床研究が 2018 年 12 月開始とあるが、残り1年強でエピゲノム研究とバイオマーカー研究がどのレベルで達成できるのか出口を少し具体的にしてください。 ・研究の加速化が必要であると考えます。
心臓調律制御医学講座 (不整脈病態制御医学講座)	研究	A	<ul style="list-style-type: none"> ・当初の研究計画に沿って研究活動が展開されており、期待以上の研究成果を上げているものと考えられる。 ・旧講座30年度分と合わせ29年度を上回る成果発表を行っている。 ・31年度の研究項目が前回と同様なので、もう少し具体的に絞った方が目標が見えやすい。 ・アブレーション法の改善にまで視野に入れている。 ・年1度の成果報告会において、適切に連絡・報告を行っているものと考えられる。 ・TWA&HRT、インスリン抵抗性など着実な研究成果を上げ、新講座へ移行している。 ・今後も連絡と情報提供等を希望する。

心臓調律制御 医学講座 (不整脈病態 制御医学講座)	診療	A	<ul style="list-style-type: none"> ・寄附目的に沿った適切な診療活動が展開されている。 ・定期的に報告会なども設けられており、診療活動の進捗状況等を報告、進捗管理が行われていた。新講座も含め、今後の更なる当分野での診療活動が期待される。 ・年度で見ると100件以上の治療をこなしている。旧寄附講座と同等の診療実績を上げている。 ・今後も寄附者との連絡と情報共有等を希望する。また今後も当分野での更なる研究を期待。 ・今後の具体的な診療計画の記載が弱い。 ・評価する際に、実績が「計画以上」と判断するための対計画の判断根拠を明確に。例えば、計画での一定の数値目標など。
	教育	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ニーズに沿った適切な教育活動が展開されている。 ・学生への教育は良いですが、市民向けのものもより充実させてください。(報告書に「企画していく」と記載あり) ・教育成果の報告が行われており、適切に検証がなされていると考える。 ・目的に沿った教育活動が頻回に実施されている。 ・今後も寄附者との連絡と情報提供等を希望。また今後も当分野での更なる研究を期待。 ・教育効果の自己評価に当たっては、できるだけ客観的指標(ものさし)を考慮されたい。 ・面への拡がりを期待したい。
肥満・体内炎症 解析研究講座	研究	A	<ul style="list-style-type: none"> ・寄附目的に合った研究活動であるが、期間が短く、資料不足のため評価困難。 ・向こう3か年計画は、ごく一般的な表現にとどまっているため、より具体的かつ詳細な計画が必要と考えます。 ・立ち上がったばかりであり、本年度の病態解明の基礎データ収集の着実な進行に期待する。 ・評価困難ですが当該講座開設前の研究成果の活用及び医療エレクトロニクス研究講座との連携効果が期待されます。
生体機能 イメージング 講座	研究	S	<ul style="list-style-type: none"> ・寄附目的に沿った研究活動である。 ・現状に合わせて計画の変更がなされ、研究活動の進捗管理がされている。 ・寄附者の期待には充分応えていると思われる。 ・新PET施設での更なる成果を期待します。 ・製造工程の簡略化にも取り組んでいる。 ・薬剤合成法などPET研究では着実な進捗。但し、残り1年強、新PET施設の移行作業もある中で、「新たな研究課題を立ち上げる」ことがスケジュール的に妥当なのか懸念。 ・新PET施設での診療支援の状況によっては「診療面」での評価を加えることも考慮されたい。 ・成果発表の機会が大きく減少しているのは気になるところです。研究成果としての論文化が少ない。
低侵襲腫瘍 制御学講座	研究	A	<ul style="list-style-type: none"> ・研究計画に沿って研究活動が展開されており、進捗管理が適切に行われている。今後の計画の変更はなく適切である。 ・論文数(15)、学会発表(28)と着実な進行。論文化、学会発表での報告が多くなっている。 ・がんコホート登録も拡大しており、多数の医師・医療機関とのスムーズな連携によるシナジー効果を期待する。 ・ロボット手術の臨床試験が開始され、研究活動目的の成果が期待される。 ・研究の目的が「研究医の教育」とあり、判定しにくい。 ・学会発表は活発であるが、論文化を加速化して欲しい。
スポーツ 医学講座	研究	A	<ul style="list-style-type: none"> ・寄附目的に沿った研究が実施されている。 ・年度ごとに論文数(9)は伸びており着実な進行。 ・福島県民の健康の向上に貢献できるよう研究活動の目的が達成できるよう期待する。 ・研究成果の積極的還元を期待します。

スポーツ 医学講座			<ul style="list-style-type: none"> 各年度の研究テーマを予め計画的に設定しているのかどうか不明なため評価が難しい。 進捗管理はされていると思われるが、論文化、学会発表のみにとどまらず、設置期間の計画が進められるよう管理が必要。 論文化を精力的に進めて欲しいです。
	診療	A	<ul style="list-style-type: none"> 寄附目的に沿った実績につながる診療活動が実施されている。 総合南東北病院以外での検診を拡充する具体的計画があるのか明らかにされたい。 現状から計画が立案されていると思われる。 計画以上の診療実績(600 vs 900)がある。また、計画に外来 600 名と数値目標を記載した点は評価できる。 スポーツ外来が 2 施設となり診療活動の実績となっている。 スポーツ分野で信頼を勝ち得ている。
	教育	A	<ul style="list-style-type: none"> 健診を通して教育活動が実施されている。 市民向けの教育活動がなされている。 医療従事者を対象とする教育活動については客観的検証・評価方法を確立されたい。効果の評価が実施されている。 医師、療法士の受講者 100 名以上と成果をあげている。 市民公開講座も評価できる。 評価する際に、実績が「計画以上」と判断するための対計画の判断根拠が難しいため、数値化された計画の記述を求める。
地域産婦人科 支援講座	研究	B	<ul style="list-style-type: none"> 目的に沿った適切な研究活動が行われているものと考えられる。 卵巣癌の早期発見を目標とするマーカーの研究であり成果を期待したい。計画通りにマーカーを発見できれば患者にとって朗報であり、早期の結果を期待したい。 臨床研究に期待したい。精力的に診療活動を実施している。 人員不足により研究の進捗が遅れている。 研究成果について学会発表等の実績がない。 研究テーマに少し無理があるのではないかと。進捗管理をする必要があると考える。 データ解析に苦慮しているとのことであり何かしらの見直しが必要ではないかと思われる。症例集を増やすなどの工夫が必要である。 経過観察の結果に期待したい。 症例の集積には他施設との共同研究もありえる。 一般にも広く情報提供を望む。
	診療	S	<ul style="list-style-type: none"> 年度末において、これまでの医療活動を踏まえた適切かつ具体的な計画が徹底されており、妥当なものであると考えられます 診療実績は地域の実情に即した妥当なものである。 多くの症例に対応しており里帰り分娩にも積極的である。 いわき地域の産科診療体制の維持に極めて大きな役割を果たしている。 医師確保に向けての取り組みを期待。 地域に信頼される安全な医療を積み重ねてください。 一般にも広く情報提供を望む。
	教育	S	<ul style="list-style-type: none"> 年度末に教育成果の報告がなされており、適切に検証されているものと考えられます。 ニーズに沿った、適切な教育活動が行われていると考えられます。 市民や学生に対する啓発に積極的に取り組んでいる。 地域の高校生への教育活動は高く評価される。感想文や標語の作成など、活動の効果を検証し、効果をあげている。 性感染症の啓発に積極的に取り組んでおり、性教育活動が市民にさらに周知されるように期待する。一般にも広く情報提供を望む。 医師確保に向けた取り組みについても期待したい。
地域救急 医療支援講座	研究	A	<ul style="list-style-type: none"> 年度末に研究成果の報告が行われており、適切であると考ええる。 研究活動は長期にわたるものであるが、ある一定の期間において進捗管理を行い、必要に応じて研究計画を適宜見直す等の工夫がされているものと考えている。

地域救急 医療支援講座		<ul style="list-style-type: none"> ・活発な学会発表については評価したい。数多くの研究成果をあげている。 ・急性心疾患の救命のための対応策を講じており、救急医療の質向上が期待できる。 ・福島市内の2次救急病院の支援に大いに役立っている。 ・今年度行われる心電図送電システム期待しています。是非導入前後のデータをまとめて下さい。 ・論文にまとめられるように期待したい。 ・これまでどおり寄附者への連絡や情報提供等を希望する。一般にも広く情報提供を望む。 ・研究目的に沿った活動内容の記載が見当たらない。全体的な研究活動の進捗が不明である。 ・研究成果については地域救急医療支援講座が主として行った研究について報告してください。 ・福島市内の救急医療ニーズ及び受療動向に関する報告が見当たらない。 ・研究テーマである「12 誘導心電図伝送システム導入」に関する研究が希薄である。
	診療	A <ul style="list-style-type: none"> ・寄附目的に沿った適切な診療活動が展開。これまでの診療活動を踏まえた適切かつ具体的な今後の計画が設定されており、適切なものであると考ええる。 ・福島市内病院に対する支援当直を通じて救急医療体制の充実に大きく貢献している。救急輪番における2次病院の負担軽減になっている。 ・健康マラソン大会での救急活動は地域密着の活動で評価できる。 ・これまでどおり寄附者への連絡や情報提供等を希望する。一般にも広く情報提供を望む。
	教育	A <ul style="list-style-type: none"> ・福島市消防隊員や病院の救急スタッフへの教育、初期研修医に対する教育などニーズに即した教育活動を行っている。 ・救急診療における救急隊の役割や研修医の対応を評価して、適切な指導がなされている。救急の標準化教育に期待する。 ・ワークステーションを行い、体験実習できるようにしている。種々対応しており、高く評価できる。 ・これまで以上のよりこまめな寄附者への連絡や情報提供を希望する。一般にも広く情報提供を望む。 ・臨床研修医への教育や福島市消防への研修等に関し、より詳しい実施内容の報告を希望する。 ・一昨年まで実施していた中学生に対する講習会など地域に対する啓もう活動については可能な範囲で取り組んでいただきたい。
疼痛医学講座	研究	A <ul style="list-style-type: none"> ・寄附目的に沿った適切な研究活動が行われている。一定期間ごとに進捗状況が的確に確認されており、必要に応じて研究計画を見直すなど、適切に研究の進捗管理がなされ、効果的な研究活動が行われているものと考えられる。 ・新しい治療プログラムの提案など着実に成果を出している。 ・ペインマネジメントプログラムについては既に20例以上に実施し結果を学会や論文で発表している。さらに症例を積み重ねより良いプログラムとして完成させ普及していくことを期待する。 ・慢性疼痛患者に対する新しい治療枠組みの提案が優れている。 ・痛みについて診療を超えて研究水準にまで高めている。 ・論文、学会発表等多数行っているが、更なる論文化が求められる。 ・来年度の総括に向けた研究活動を続けて頂きたい。 ・慢性疼痛の医療経済学的側面を明らかにするという研究目的を果たすことを期待する。
	診療	A <ul style="list-style-type: none"> ・寄附目的に沿った適切な診療が展開されている。 ・年度末において、これまでの支医療活動を踏まえた適切かつ具体的な計画が徹底されており、妥当なものであると考えらる。 ・「慢性疼痛センター」の認知度が上がり県外からの紹介患者も増えている。

疼痛医学講座			<ul style="list-style-type: none"> ・症例の積み重ねにより完成度、認知度も高まり医師の確保にもつながっているものと思われる。 ・医師だけでなく、理学療法士、精神科、心理士などの多職種からなるチーム医療を行っている。 ・来年度の総括に向けて活動を続けて頂きたい。 ・これまでどおり集学的治療をすすめてほしい。
多発性硬化症治療学講座	研究	S	<ul style="list-style-type: none"> ・一定期間ごとに進捗状況が的確に確認されており、必要に応じて研究計画を見直すなど、適切に研究の進捗管理がなされ、効果的な研究活動が行われている。 ・学会発表をとおして適切に研究の進捗が管理されている。 ・国際レベルの先進的な研究活動となり、多数の論文、著書、学会発表等の実績もある。 ・新しい病態の発見とその病態の確立をおこなった点は評価できる。 ・自己免疫性疾患の診断に成果をあげている。 ・新しい治療法の開発に大きく貢献することを期待したい。 ・計画に沿って進行し、早期に検査体制が確立することを希望する。 ・一般にも広く情報提供を望む。
	診療	A	<ul style="list-style-type: none"> ・寄附目的に沿った適切な診療が展開されている。 ・年度末において、これまでの支医療活動を踏まえた適切かつ具体的な計画が徹底されており、妥当なものであると考えられる。 ・西日本を含めた広域の診療ニーズに応えてきた。 ・より多く患者が集められる体制づくりがなされている。 ・地域のニーズに沿った有効な治療につながる診療活動を期待したい。 ・一般にも広く情報提供を望む。
	教育	A	<ul style="list-style-type: none"> ・年度末において、これまでの医療活動を踏まえた適切かつ具体的な計画が徹底されており、妥当なものであると考えられる。 ・研修医の教育にとどまらず講演会など幅広く教育活動を行っている。地域で教育活動を実施している。 ・患者や家族などに対しても啓もう活動を行い、相談会で質疑にも応じている。 ・国際学会などでの活発な教育活動は評価できる。 ・今後も基礎的知識と最新情報の提供を行って欲しい。 ・これまで以上に教育活動にご尽力頂くことを希望する。 ・一般にも広く情報提供を望む。
外傷学講座	研究	A	<ul style="list-style-type: none"> ・一定期間ごとに進捗状況が的確に確認されており、必要に応じて研究計画を見直すなど、適切に研究の進捗管理がなされ、効果的な研究活動が行われている。 ・高度な臨床研究を行い、新たな研究テーマに取り組み成果を出している。 ・論文発表の他、多くの学会発表を行っている。 ・難治性骨折など外傷の診療レベル向上に寄与している。 ・PETを用いた診断は新しい研究で素晴らしい。 ・データベースを構築し、データ解析と病理所見を合わせた分析を行っている。症例の蓄積によりデータの精度を高め研究成果を充実させていくことを期待したい。 ・県内はもとより全国や世界に向けての研究成果の発信に期待。 ・一般にも広く情報提供を望む。 ・一定の業績はあるが、十分とは言えない。
	診療	A	<ul style="list-style-type: none"> ・寄附目的に沿った適切な診療が展開されている。 ・しっかりした技術に裏付けされている。 ・徐々に診療実績が増えてきている。手術件数や外来入院とも多数の診療実績となっている。 ・難治性骨折に対する診療のレベルアップが図られた。 ・さらなる発展を目指して計画が策定されている。 ・新たな治療成績評価法、診断法を確立することを期待する。今後も継続的な診療を期待。 ・一般にも広く情報提供を望む。

外傷学講座	教育	A	<ul style="list-style-type: none"> ・目的及びニーズに沿ったセミナーの開催など、医師以外の医療スタッフの教育についても適切に活動している。 ・年度末に教育成果の報告がなされており、適切に検証されている。 ・外傷と疾患を分けて診ることは他にはないということですので、是非整形外科医向けの教育に力を入れてください。 ・高校生の見学への対応などさらに幅広い教育活動を展開している。 ・外傷セミナーを開催して広く知識技術の周知を行っている。 ・研修医への指導において一層の成果を期待する。 ・一般にも広く情報提供を望む。
消化器内視鏡 先端医療 支援講座	研究	A	<ul style="list-style-type: none"> ・一定期間ごとに進捗状況が的確に確認されており、必要に応じて研究計画を見直すなど、適切に研究の進捗管理がなされ、効果的な研究活動が行われているものと考えられる。 ・多数の論文を発表している。 ・機器の開発から次の段階へ適切に計画がすすめられている。治療法の開発などは先進的な取り組みである。 ・改良が難航しているが、県内企業や関係機関との連携などにより製品化がなされることを期待する。 ・長期にわたる研究で成果をあげている。これからも継続した研究活動、研究成果の増加を希望する。 ・一般にも広く情報提供を望む。
	診療	S	<ul style="list-style-type: none"> ・寄附目的に沿った診療活動が行われ、年度末において、これまでの医療活動を踏まえた適切かつ具体的な計画が徹底されており、妥当なものであると考えられる。 ・先端的な取り組みを行いながら数多くの消化器内視鏡検査と治療をおこなっている。 ・ガイドライン作成に貢献している。多くの症例を診療している点が良い。 ・さらに診療のレベルアップをしていくことを期待。 ・一般にも広く情報提供を望む。
	教育	A	<ul style="list-style-type: none"> ・内視鏡トレーニングシステムの開発で安全で確実な手技を教育できるようになった。内視鏡専門医の育成に成果をあげている。 ・ニーズに沿った、適切な教育活動が行われている。 ・多くの学会で成果を発表して広めている。 ・年度末に教育成果の報告がなされており、適切に検証されている。 ・患者の負担を軽減する治療法であるが医師の技量向上が不可欠であり成果を期待したい。教育上の実質的な実績が見えない。 ・数多くの専門医の育成を期待する。 ・一般にも広く情報提供を望む。
周産期・小児 地域医療 支援講座	研究	A	<ul style="list-style-type: none"> ・須賀川地域の周産期・小児地域医療に関する医療統計と基幹病院における受療動向に関して詳細な分析を行うとともに、定期的な診療援助及び医師育成のための勉強会が実施されており、寄附目的に沿った研究が行われている。 ・寄附講座の研究活動に即した取り組みがなされ、須賀川市及び周辺地域における周産期・小児医療の実態と問題点が明確になるとともに、蓄積された臨床データに基づき周産期・小児医療の向上につなげることができている。 ・診療援助体制に変更が生じる場合等、寄附者ととともに、基幹病院と連絡調整が適切に行われた。また、定期的に研究活動の報告が行われている。 ・産科、周産期医療が福島病院から公立岩瀬病院に移管されたが、診療援助体制が適切に調整され、今後も引き続き研究が推進されるものと大いに期待している。 ・地域医療の確保と充実という臨床研究的視点で計画をすすめてもらいたい。データの解析についての報告を期待する。 ・地域医療の確保は重要な臨床研究テーマであり、その確保に寄附講座という手法がどれほど役立ったかについて検証すべきである。 ・研究業績が十分とは言えない。学会発表等の実績がない。

<p>周産期・小児 地域医療 支援講座</p>	<p>診療</p>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> 定期的な診療援助及び勉強会が実施されており、寄附目的に沿った診療活動が展開されている。 基幹病院との連絡調整に基づく計画の見直し(例:診療援助体制を都度)がなされており、今後の計画も現状を踏まえた適切なものになるものとする。地域のニーズを踏まえた適切な計画である。 須賀川地区の医療供給体制に多大な貢献をしている。 福島病院の体制縮小は極めて残念であるが、診療支援により地域の期待に応えることが出来たことを評価したい。 今後も、当地方の地域医療を充実させるためには必要不可欠であり、継続した診療活動を望む。 医師不足の状況であるが、継続的に講座の充実に努めることを期待する。 一般にも広く情報提供を望む。
<p>外傷再建学 講座</p>	<p>研究</p>	<p>S</p>	<ul style="list-style-type: none"> 研究計画に沿って研究活動が展開されており、着実に研究成果を上げている。 研究成果に対する分析ができており、今後の課題などについて現況に応じた計画管理がされている。年度ごとに状況に応じた適切な計画立案・修正がされている。 研究活動が対外的にその存在感が認められるようになってきている。 昨年同様、積極的に数多くの学会発表を行い、それに伴い論文の発表が増えている。メディカルスタッフによる学会発表も行われている。 観察的研究に秀でている。定量的評価を導入している。 「外傷再建センター」としてデータを蓄積して国内外で成果をアピールすることを期待する。 元々の計画の基準値が低い。
	<p>診療</p>	<p>S</p>	<ul style="list-style-type: none"> 診療実績数は年々増加しており、目的に沿った適切な診療活動が展開されている。地域のニーズにそった診療体制の構築がなされるよう適切に計画されている。 研究活動や成果についての定期報告の他、適宜報告や相談がなされている。 多数の診療実績をあげ地域医療に貢献している。地域の外傷診療をリードしている。 若手医師が集まり、大変優れた診療実績を挙げている。 必要な手術器械の購入により一層の成果があがることを期待したい。 診療目的との整合性を図って欲しい。 一般にも広く情報提供を望む
	<p>教育</p>	<p>S</p>	<ul style="list-style-type: none"> 目的に沿った適切な内容で教育活動が展開されていると認められる。 定期的に学会などで発表して評価をうけ、教育的活動も評価できる。 医師の獲得、見学者の受け入れ等、確実に成果を上げているものと認められる。 医師だけでなくメディカルスタッフの育成についてもカンファレンスを通じて積極的な教育活動を行っている。 全国からスタッフが集まり、診療体制が充実してきている。 他施設共同研究による新領域を開拓している。 講座の魅力をさらに発信しつづけることを期待している。一般にも広く情報提供を望む。
<p>地域整形外科 支援講座</p>	<p>研究</p>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> 寄附講座の設置目的に沿って研究が進められている。 一定期間ごとに進捗状況が的確に確認されており、必要に応じて研究計画を見直すなど、適切に研究の進捗管理がなされ、効果的な研究活動が行われている。 四肢外傷診療レベルの向上があげられる。四肢外傷の治療データを蓄積し解析を行い、学会などで適宜報告して成果をあげている。 地道な努力を続けている。 最終報告に向けて成果を期待したい。 実績の報告に目的以外の脊椎疾患について含まれているが、設置の目的に合致していないので、寄附講座の役割を見直し、今後の支援計画の変更も考慮すべき。

地域整形外科 支援講座			<ul style="list-style-type: none"> ・研究成果は十分とは言えない。 ・論文作成が少ないことは改善点である。 ・一般にも広く情報提供を望む。
	診療	S	<ul style="list-style-type: none"> ・寄附目的に沿った診療活動が行われている。 ・高度な治療レベルを確保し年間 600 件の手術に対応するなど地域の診療体制の向上に大きく貢献している。四肢外傷の診療レベルの向上は評価できる。 ・病院建物が新しくなり患者数増加が見込まれる。 ・少ない医師で症例数を増やしているが、講座の人員に限りがあるため、診療活動は上限に達している。今後は講座の人員確保が診療実績向上には欠かせない。 ・長期的な医師の確保につながっていくことを期待する。 ・人員の確保を開設者と相談すべき。 ・一般にも広く情報提供を望む。
	教育	A	<ul style="list-style-type: none"> ・幅広い教育活動を行っている。若手医師への教育など適切に教育活動が行われている。ニーズに沿った、適切な教育活動が行われていると考えられます。 ・学会活動や手術実績を管理することで検証しながら進めている。 ・地域における講演会、コメディカルスタッフに対する教育にも取り組んでいる。 ・発表会で話していた様に、市民も教育の対象ですので計画してください。 ・講座の魅力をさらに発信して人員が増えることを期待する。 ・一般にも広く情報提供を望む。
災害医療 支援講座	研究	A	<ul style="list-style-type: none"> ・目的に沿った適切な研究活動が行われている。期待以上である。 ・年1回の研究会で成果を発表して進捗管理を行っている。 ・多くの論文、学会発表等の実績がある。医療を支える高い志が感じられ、研究の意欲も感じられる。 ・今後も被災地域の診療体制の構築に貢献していくことを期待。 ・被災地の医療ニーズの分析を通じて診療を行っている。被災地域での医療を支えて頂いて深く感謝している。 ・被災地で講座に所属する医師が診療活動を行っている。一方で、講座の規模を考えると十分な成果が上がっているとは言えない。 ・今回の成果報告では、個人的な活動内容になっているので講座としての成果をだしてほしい。 ・適切な進捗管理がなされているが、研究活動を進める上での課題の抽出や見直しが行われていない。研究という点では少し工夫が必要だと思う。 ・一般にも広く情報提供を望む。
	診療	A	<ul style="list-style-type: none"> ・寄附目的に沿った適切な診療が展開されている。 ・期待どおりの診療活動が行われており延べ日数も増加している。 ・チームを作り、全体として底上げを図っている点も評価できる。 ・引き続き被災地復興への貢献を期待する。 ・講座として被災地での診療活動がどのくらい行われているか、成果発表からはそれが把握できなかった。 ・被災地での医療ニーズに即して、今後の診療計画を立てることを望む。 ・これまで通り寄附者への情報提供等を望む。一般にも広く情報提供を望む。
東白川 整形外科 アカデミー	研究	A	<ul style="list-style-type: none"> ・一定期間ごとに進捗状況が的確に確認されており、必要に応じて研究計画を見直すなど、適切に研究の進捗管理がなされ、効果的な研究活動が行われている。 ・埼玉厚生病院整形外科における入院患者と外来患者数とも変化はなく診療内容が地域に受け入れられている。 ・近隣医療施設との連携が良く、紹介患者も多い。 ・関節リウマチ患者に対する生物活性剤を使用した治療は大きな成果をみている。 ・診療支援を目的とした中での研究内容となっている。

東白川 整形外科 アカデミー			<ul style="list-style-type: none"> ・当初の2年間以後は、設置者の意向に沿った臨床研究活動がなされていない。学会発表等も行われているが、研究成果は先細りになってきている。 ・新たなテーマでの研究開始に期待したい。 ・整形外科全般にわたる活動を願う。 ・一般にも広く情報提供を望む。 ・苦労している状況は良くわかりましたが、是非、頑張ってください。
	診療	A	<ul style="list-style-type: none"> ・関節リウマチ患者の治療、骨粗鬆症予防の啓蒙活動及び治療、高齢者の股関節置換術、膝関節置換術は大変重要。 ・誠実に活動していることがうかがわれる。引き続き幅広い活動を期待する。 ・設置計画に沿って診療活動は行われているが、開設者が期待している診療レベルにはなっていない。 ・今回の成果報告を聞く限り、さらに診療が充実する計画になっていない。 ・東白川地区での整形外科医療の確保と関節リウマチの診療レベルの向上はあるが、徐々に患者数や手術が減少してきている。 ・東白川地区の特色を生かして講座の魅力を発信してもらいたい。一般にも広く情報提供を望む。
	教育	A	<ul style="list-style-type: none"> ・講座周辺の医療機関と連携して定期的に勉強会を開催することで関節リウマチの診療レベルを向上させている。 ・地域における医療ニーズに沿った、適切な教育活動が行われている。 ・リハビリに対する治療・改善点等、理学療法士・看護師への指導が評価できる。地域救急隊への教育指導も評価できる。 ・治療を要する患者・家族への説明の徹底は評価に値する。 ・年度末に教育成果の報告がなされており、適切に検証されている。 ・より一層の成果を期待する。 ・整形外科は分野が広いので関節リウマチに限らず、教育活動の対象疾患の幅をひろげることも検討してもらいたい。 ・一般にも広く情報提供を望む。
神経再生 医療講座	研究	A	<ul style="list-style-type: none"> ・一定期間ごとに進捗状況が的確に確認されており、必要に応じて研究計画を見直すなど、適切に研究の進捗管理がなされ、効果的な研究活動が行われている。 ・研究活動や成果についての定期報告会の他、適宜報告や相談がなされている。 ・計画どおりの症例数を達成するなど、成果が現れている。 ・多数の学会発表等を行っている。 ・期待した成果がでなかったが、次のテーマが計画されている。 ・治療効果があがれば画期的な研究になるものと思われる。 ・高い水準の研究を行っている。 ・計画にそって研究をすすめていただきたい。 ・一般にも広く情報提供を望む。 ・2019年度にどのように研究を発展させるかが課題です。
	診療	A	<ul style="list-style-type: none"> ・寄附目的及び診療の目的に沿った診療活動が行われている。 ・講座開設後に診療も行うようになった。医師不足の現状を踏まえての計画変更であり適切である。 ・研究活動や成果についての定期報告会の他、適宜報告や相談がなされている。 ・神経内科診療の地域連携システムを構築するという構想により、地域の診療レベルを向上させる役割を果たそうとしていることに期待ができる。 ・地域医療の充実に大きく貢献している。 ・神経内科医不足の現状打開を期待したい。 ・診療の継続を希望する。 ・一般にも広く情報提供を望む。

白河総合診療 アカデミー	研究	A	<ul style="list-style-type: none"> ・設置計画に沿って臨床研究活動がなされている。 ・年ごとに実績を積み重ね適切に進捗管理がなされている。 ・毎月報告を受け研究計画などの協議を行っている。 ・研究成果については積極的に活動しており、英文論文、学会賞など質量ともに優れている。 ・白河地区での総合診療を確立したことは評価できる。 ・高い志のもとに研究活動を実現している。 ・研究の遅れている教官の挽回を期す。 ・体外発信により研修医確保に大きく貢献することを期待する。一般にも広く情報提供を望む。 ・講座規模から考えれば、更なる活動の拡大を求めたい。
	診療	S	<ul style="list-style-type: none"> ・年度末において、これまでの医療活動を踏まえた適切かつ具体的な計画が徹底されており、妥当なものである。随時改定を行っている。 ・計画を上回る、入院外来患者を受け入れ、診療実績をあげている。 ・救急搬送応需率 85%程度で 2 年連続 3000 台超を達成するなど成果を上げている。病院の中核的役割を果たしている。 ・全国レベルでの総合診療を提供していること。 ・総合診療医の育成にも大きな効果をあげている。 ・マンパワー確保が困難な中で地域医療の充実に多大な貢献をしている。 ・一般にも広く情報提供を望む。
	教育	A	<ul style="list-style-type: none"> ・マンパワー不足の中で指導に影響があったことを率直に認めながら適切な教育活動を行っている。 ・日々の総回診やプレゼンテーションを通じて検証がなされている。至適な個人ごとの教育がなされている。 ・外部講師の教育回診がおこなわれ、検証しながら教育レベルを向上させている。 ・事後アンケートの実施について特に評価したい。 ・後期研修医のみならず、臨床研修医、学生に対しても熱心に教育をし、多数の研修医が参集してきている。研修医には全国一流の教育を提供している。 ・恒久的な人材輩出を実現する研修モデルの確立を目指しており、効果が期待される。 ・宣伝・後方の重要性を意識した取り組みを行っている。 ・地域住民への健康長寿推進事業も評価できる。
腸内環境病態 医療学講座	研究	A	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 30 年度の研究計画に沿った研究が行われていると思う。 ・研究テーマと研究計画が見直され進捗管理されている。 ・投稿中も含め論文 7 件と一定の成果を上げている。 ・十分な解析水準。
	診療	B	<ul style="list-style-type: none"> ・診療活動に繋がっているか不明。十分とは言えない。 ・種レベルの解析には至っていない。サンプル収取・解析にとどまらず診療活動に活用できると良い。
	教育	B	<ul style="list-style-type: none"> ・講演等の活動を通し教育活動が実施されている。しかし昨年度の報告以降の活動の記載がない。 ・教育活動に関する効果が読み取れない。教育活動回数や対象人数等から効果的な教育活動の再考が必要。 ・教育活動も更に活発だとよい。効果的な教育が実施されるよう、教育活動の効果を検証がなされている。十分とは言えない。 ・2018 年度 1 回の講演に留まる。

3 評価に対する講座の対応

評価会議等で出された助言等を活動に生かすため、各講座に対して評価をフィードバックしております。各講座よりあげられた助言等に対する主な対応策は以下のとおりです。

<肺高血圧先進医療学講座>

論文報告が前年を上回るよう努力致します。

脂質異常マウスを用いた基礎実験は鋭意進行中です。患者データベース化につきましては、寄附講座更新後も継続しており、同時に日本全国でのレジストリにも参加・登録を行うところです。

開業医院も含めて各地域の病院と連携を強め、幅広い患者スクリーニングを目指します。

<生活習慣病・慢性腎臓病（CKD）病態治療学講座>

いただいた評価に恥じぬよう、引続き研究を推進し成果を発表して参りたいと思います。

<医療エレクトロニクス研究講座>

さらなる研究の発展に努めてまいります。

脈波センサーにつき説明不足で申し訳ありません。現在、開発は最終段階にあります。こちらにつきましても近々良好な結果を報告できると確信しております。

<心臓病先進治療学講座>

データの公表、疾患および診療の普及を通じて、医療および社会への貢献を進めて参ります。

疾患の普及および病診連携の拡充を実践して参ります。

市民、学生、メディカルスタッフ、医師へ向けて、疾患の普及を行うとともに、病診連携の拡充を継続して参ります。

検査体制の拡充および啓蒙活動を継続して参ります。

<先端癌免疫治療学講座>

これからも各テーマに沿って適確に仕事を進めてまいりたいと思います。

企業とのコンソーシアムを形成して更なる展開を行います。

<プログレッシブ DoHaD 研究講座>

パイロットスタディは寄附者とともに検査を進めており、進捗に関して随時確認しております。

発表会でのご指摘も踏まえ報告書作成時に注意いたします。

検体検査は寄附者である（株）ライフバンクジャパン様をはじめ外部機関委託で行っております。検査費用の関係から検体を10例ずつ集めて検査することとしております。夏季には計画出産が少なくなっておりますが、今後増加が見込まれます。

<心臓調律制御医学講座（不整脈病態制御医学講座）>

研究項目に関し、アブレーション法の改善を含めより具体的な項目および目標を設定いたします。

今後も講座での研究状況の報告を行い、また研究結果を学会発表および論文として公表していきたいと思っております。診療計画に関し、より具体的な記載をいたします。

今後も、患者様本位の診療を継続し、実績を重ねていきたいと思っております。さらなる診療の発展・普及へ尽力して参ります。

一般市民向けの講座等も検討したいと思っております。教育効果の評価にあたり、客観的指標を取り入れるべく努力いたします。

<肥満・体内炎症解析研究講座>

来年の報告には成果をきちんと出せるように尽力いたします。

今後の成果に基づきより具体的な計画を提案いたします。

<生体機能イメージング講座>

診療中心の現PETに、H30年度は臨床研究のために新たに2薬剤、保険診療のために1薬剤を臨床使用できるようにした。

本寄附講座の目的であった新PET施設にこれまで蓄積された技術や研究枠組みを移管することが、次年度の中心課題となる。

これまでは外部との共同研究成果が中心であったが、次年度の新PET施設に開所に伴って、寄附者の所属機関での研究体制が整い、そこでの成果が上がるよう努める。

新PET施設の開所に伴って、PET研究計測が拡大されることとなる。これまでの臨床研究の一部には特定臨床研究に該当するものがあり、それへの対応がまだ完了していない部分については、早急に完了するように努める。

新PET施設へ導入された、高性能の半導体PET/CT装置などの特性を活かした研究を展開するよう努める。

寄附者が目的としていた新PET施設が開設されたので、それに見合った活動になるよう、密接に連携を図る。

新 PET 施設での限られた人的資源を効率よく活かして活動する。

寄附講座の残り期間が迫っており、これまでにない高性能の半導体 PET/CT 装置を保険診療に活かすこと、診療支援につながる未承認 PET 薬剤を使用した臨床研究、特定臨床研究などを適切に配分して、新 PET 施設を運用するように努めて、寄附者の目的に応えたいと考えている。

<低侵襲腫瘍制御学講座>

教育の成果も論文発表として可視化できるよう努めて参りたいと思います。引き続き、新規治療の臨床試験、地域コホート研究を中心に進めてまいります。

データ収集が終わり、論文化できる研究が4つあります。これらの論文を質の高い国際誌への投稿を行います。

<スポーツ医学講座>

設置期間の計画を立案する、研究成果を還元できるよう、論文化を進める。また、論文化を積極的に進めるよう各発表者に助言する。

(総合南東北病院以外での検診を拡充する具体的計画があるか) 検診は県内各地で現在も行われている。全て病院外で、小中学生、高校野球選手を対象にしている。医療従事者に対する教育活動の評価方法を検討する。計画を数値化することを目標とする。

<地域産婦人科支援講座>

症例は目標の50例採取できた。

現時点での分析を行って発表したい。

<地域救急医療支援講座>

救急医療ニーズ及び受療動向の透明性を明文化するために、今年度より支援当直を行っている二次救急医療機関の4病院の支援症例を具体的に提示することとします。

また「12誘導心電図伝送システム」は当講座の研究テーマではなく、あくまでも救急医療学講座・循環器内科講座が主導で行う事業であり、システムが稼働し症例の集積が可能となった時点での研究協力という位置づけであると御理解いただきたく存じます。本システムは、今年度中に稼働開始となるか現時点で不明ですが、救急医療学講座と循環器内科との打ち合わせは終了しており、稼働後の症例集積により研究成果が報告できるものと考えております。

二次救急医療の支援が当講座の主な活動であることから、活動に即した論文の作成を行うこととしました。

臨床研修医や福島市消防への教育効果をアンケート調査などで確認し報告する予定

です。

現在、人員不足により中学生に対する講習会を通じての十分な啓蒙活動ができておりません。今後の課題として再考する予定です。

以前より寄附者である福島市との進捗状況の確認が希薄であるとの指摘されておりました。今年度は少なくとも年3~4回は活動内容の確認のための面談を行う予定です。

<疼痛医学講座>

継続した研究を行っていきます。医療経済学的側面を明らかにしようとする厚労省科学研究班の一員となっており、その研究を分担することで明らかにしていきたいと思っております。論文作成に努めます。

<多発性硬化症治療学講座>

準備中の研究論文を早期に国際誌に発表していく。また、新たなMOG抗体測定系の開発を加速していく。

これまでと同様に定期的に寄附者への活動報告を継続していく。

自己免疫性中枢神経疾患の診断をより確実にし、研究発表を積極的に行っていく。

検査体制の確立に向けてさらに努力していく。他科や他施設との診療の連携をより密接に行っていく。

西日本まで既に開始している北海道との診療連携を推進していく。地域内の診療連携をより密にして一般への情報提供を講演会やインターネットを利用して行っていく。

教育の効果を検証しながら進めていく。今後も国内外での教育活動を推進する。基礎的知識と最新知見の提供を種々の媒体を利用して幅広く行っていく。

<外傷学講座>

2019年8月の国際学会（ILLRS）で発表を行いました。論文は1編が出版待ち、2編が執筆中です。2019年3月に市民公開講座を開きました。今後も続けていきたいと思っております。

他病院からPET/CT検査の相談を受けるようになりました。今後も情報提供を続けていきたいと思っております。

研修医へのセミナーを年1回開催しておりますが、今後は機会を増やしていきたいと思っております。

<消化器内視鏡先端医療支援講座>

今後も研究成果を論文化して参ります。機器の開発と製品化に向けて、さらなる改良を行い、胃静脈瘤治療用の優れたトレーニングキットとしたい。今後も機器開発や

治療法の開発・改良に取り組み、成果を上げて参ります。

胃静脈瘤に対する内視鏡治療を普及させるために、県内企業と連携し、臨床で有用となるトレーニングキットを製作中であり、より良いトレーニングキットの製品化を目指している。

寄附目的に沿った診療活動をさらに充実させ、数多くの内視鏡検査・治療に取り組んでいきたい。今後も、診療の現状を踏まえながら、安全でかつ有用な内視鏡診療を進めていきたい。

今後も高度な内視鏡治療をガイドラインに沿って安全かつ効果的に行いながら、内視鏡医の育成に尽力したい。

福島県内の各種研究会を介して、福島県の内視鏡診療のレベルアップに貢献できるように努力したい。

福島県のみならず、国内の学会等でもトレーニングキットを用いたハンズオンによる教育を普及できればと考えている。今後も学会等で内視鏡医のより良い教育法や教育成果について提案していきたい。福島県の内視鏡専門医の育成にさらに貢献できるように努力したい。内視鏡医の技量向上、優れた内視鏡育成のために、日本消化器内視鏡学会・内視鏡専門医/指導医、日本門脈圧亢進症学会・技術認定医（内視鏡的治療）をさらに増やしていきたい。

<周産期・小児地域医療支援講座>

須賀川地方の周産期・小児地域医療に関する医療統計を継続して分析を行っていきます。勉強会の開催なども検討していきます。

周産期統計等の研究成果について、震災や国立病院機構福島病院閉院が県全体の周産期医療体制に与えた影響を中心に論文化することを目指します。

国立病院機構福島病院の周産期医療の停止により、大きな医療体制の変化が起きています。これについて引き続き注視するとともに、調査結果を元に須賀川地方の診療体制の変更を計画します。

これまでの国立病院機構福島病院での分娩数と須賀川地区の出生数の関係から推測すると、公立岩瀬病院での分娩数はもう少し増加することが予想されます。これに対応する体制確保を目指します。

今後も、年度末に診療実績をまとめ、報告していきます。今後も地域医療の受療状況を調査し、これまでの調査結果を総括・報告することを目指します。

少子化問題は全国的な問題ですが、福島県はさらに深刻な状況にあります。これに歯止めをかけることができるように、安全・安心な周産期・小児科医療の提供に努めたいと思います。今後も須賀川地区の地域医療を充実させるように、継続して診療活動を行っていきます。

<外傷再建学講座>

(計画の) 基準値が低いという評価は残念でしたので、見直しを図ります。研究計画の最終立案をし、実行していきます。

寄附者に対して引き続き報告と相談します。

市民公開講座などを企画し一般にも情報提供します。また、院内全体に対してもセミナーなどを主催する予定です。

今年度も医師、パラメディカルともに学会発表と論文化をして参ります。講座の魅力を発信し続け、医師の確保に努めます。

<地域整形外科支援講座>

構築した外傷治療体制に則り、今後も大学同等の治療水準を維持して地域医療に貢献していきます。

外傷学会で発表したデータを集約して今年度中に論文化する予定です。寄附講座開設後に開始した新規手術法の治療成績についてまとめ、今年度中に論文化する予定です。今年度、2編の英語論文が出版されます。さらに、これまでの外傷治療の治療成績を論文化します。また、市民公開講座による情報共有を計画しています。

四肢外傷に対して新規導入した手術法、治療法は良好な成績を上げており、これを継続していく予定です。地域の脊椎外科支援は欠かせないため、来年度以降の講座の在り方について、寄附者・大学側と協議しております。

年時報告会だけでなく、院内でも寄附者との連携を図りたいと思います。

今後も大学同等の四肢外傷治療を継続し、地域医療に貢献していきます。一方、現在も手術件数は増加し続けており、現在の構成員では能力の限界に達しています。大学側の人員増加を強く望みます。人員増加は、寄附者・大学と交渉中です。市民公開講座を計画します。

今後も医師だけでなく、コメディカルへの講演、勉強会の機会を増やし、教育活動を推進します。

福島医大の学生への講義、研修医への勉強会も施行しており、引き続き活動内容の発信を行います。

<災害医療支援講座>

引き続き、被災地の医療の充実に貢献するため、研究を行っていく。

派遣先の医療機関が被災地に散在しているため、年1回のミーティング開催としている。ミーティングにおいて所属医師の研究成果の検証を行う。また、被災地の医療ニーズについて情報交換を行うと共に、課題の抽出や見直しを図る。

引き続き年1回開催の福島災害医療研究会において研究の進捗状況を報告するとともに、記録集を作成して配付する。

また、所属医師の研究成果について、今後も報告書の作成やホームページに掲載することにより、広く情報提供を行う。

診療実績報告書において、被災地における診療活動について、より具体的な説明を行う。

<東白川整形外科アカデミー>

骨粗鬆症検診と大腿骨頸部骨折に関する臨床研究を計画しています。埜町とタイアップして高齢町民全例調査を行う予定です。また、それとは別に、MRI 画像と解剖をからめた研究を開始しました。

看護師、放射線などコメディカルの研究に対する協力が得られずい病院であり、研究を行う環境は整っています。町の人口があまり多くないということからも、何らかの臨床研究を行いやすいと考えていました。上記2つの研究を進めていきます。

以前報告したように、夜間や時間外の軽微な外傷も断らざるを得ない病院体制であり、外傷症例を増加させるのは困難と考えます。できれば脊椎や人工関節などのスペシャリストの先生に複数年契約で赴任していただき、患者さんを集めていきたいと考えます。

上記研究とあわせて、骨粗鬆症、脆弱性骨折、ロコモなどについての啓蒙活動などを行いたいと考えています。

<神経再生医療講座>

2019年度は、予定通り経過をフォローしていく予定である。症例登録は終了しており、さらに症例を増やすことはできません。今後を発展させるかは、会津中央病院の先生と相談しています。

医師の確保を続けて行く予定である。病院での広報を病院側と相談します。

<白河総合診療アカデミー>

設置計画に準じて、滞りなく研究を進捗できるよう配慮します。引き続き、総合診療系の学会を中心に成果を発表します。

地域の健康増進に貢献するための研究を強化します。引き続き、毎月研究の進捗等を報告し、情報を共有します。

本邦における総合診療、プライマリ・ケアに関するエビデンスの発信を目指し、引き続き、研究活動を推進します。

これまでの研究成果を広く発信し、研修医の確保を目指します。また、一般にも情報を発信するとともに、地域を巻き込んだ研究を推進し、地域の健康増進に貢献できる研究成果を目指します。

引き続き、入院・外来・救急の診療の質を維持すると共に、他の診療科との協働を通じて、病院全体の医療の質向上につなげていきます。また、一般の方の健康やACP(アドバンスケアプランニング)に対する啓蒙活動も進めていきます。

医療を受ける側と提供する側双方にとって、住み良い社会とするために、診療の効率と共に効果を求めて、日本の総合診療における一つのモデルを目指します。

一方向の spoon feeding にならないように、問題解決能力を身に付けられるよう、そしてそれを研修医が同僚や後輩に伝えていく中で学びを深められるような、仕組み

づくりをしていきたいと思ひます。

総合診療の考え方やスキルは、どの分野に進む場合でも必要な素養であり、パソコンでいうところの operation system にあたります。総合診療を志す学生・研修医はもちろん、それ以外の領域に進む者、途中からこの領域を学ぼうとする者に対しても広く門戸を開放し、総合診療を学ぶ意思のあるすべての医療者の学び舎を目指します。

<腸内環境病態医療学講座>

※平成 31 年 4 月 30 日終了